

意見交換テーマ

「ウィズコロナ時代の 子ども・子育て支援について」

～各委員から事前にいただいたご意見等について～

相澤 仁（大分大学 福祉健康科学部 教授）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

(2)現在のサービス提供状況は

(3)どのような工夫をしているか

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

これまで虐待や貧困までいかなかった家庭でも失業や生活の不安定さの中で虐待や貧困が生じるリスクが高まることから、こうしたリスクなどへの対応が課題です。

(2)今後、必要とされる対策は

第2波が来た際に、予想される家庭状況の変化についての実態把握を行い、それに対応するための施策について検討しておく必要があります。

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

荒木 啓司（大分県児童養護施設協議会 森の木施設長）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

- ・学校が休校になり、外出も制限される中で、入所している子どもたちをどう説得し、自粛させるか
- ・保護者との面会、外出、外泊をどうするか
- ・会議、研修、イベントの開催をどうするか
- ・業者の訪問をどうさせるか
- ・マスク、消毒薬等の確保をどうするか

(2)現在のサービス提供状況は

- ・緊急事態宣言が解除されて以降の子どもたちの行動について、「新しい生活様式」を踏まえた行動ルールを作成、順守させている
- ・5月25日より、小中高校通常登校開始
- ・6月1日より、ショートステイ受け入れ再開

(3)どのような工夫をしているか

- ・感染症対策委員会の設置と開催
- ・子どもたちの遊び場もユニットごとに時間差
- ・食事の提供も職員が時間差で調理に取りに行く

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

- ・施設職員、入所児童が感染した場合の対応
- ・在宅の保護者が感染し、子どもたちの保護が必要な場合の対応

(2)今後、必要とされる対策は

- ・新しい生活様式の定着化
- ・会議、研修会の持ち方

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

糸永 隆章（大分県自治会連合会 大分市滝尾地区連合自治会 会長）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

(2)現在のサービス提供状況は

(3)どのような工夫をしているか

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

(2)今後、必要とされる対策は

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

県が適切な対応をしている。その結果長期にわたり感染者がない。特に要望はない。早く薬が開発されて、状況が落ちつくことを祈る。

井口 尚子（株式会社大分放送 報道部 記者）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

2週間ほど在宅ワークを経験しました。低学年児童と保育園児2人を家に置いての在宅ワークは、大変なことが多かったです。小さな子どもだけで外に出すわけにも行かず、家の中に閉じ込めておく形になりかわいそうでした。感染が怖いため、普段頼りにしている祖父母の力を借りることができなかつたのも大きな痛手でした。今後、在宅ワークを普及とっていますが、子どもを抱えての在宅ワークはかなり難しいというのが実感です。

(2)現在のサービス提供状況は

(3)どのような工夫をしているか

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

(2)今後、必要とされる対策は

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

太田 瞳（公募委員 ライフデザインラボ株式会社 代表取締役）

①これまでの対応状況等について

(1) どのような苦労があったか

長期にわたる休校のため、子供達の生活に張りがなくなり精神面そして体力面においてサポートが難しく感じました。学力、やる気も落ちており毎日宿題をさせるのだけで精一杯になり、親子共々疲れ切ってしまう日々を送りました。

(2) 現在のサービス提供状況は

人数制限や時間短縮をしてサービス提供を再開しています。

(3) どのような工夫をしているか

三密に気をつけ、人が集まる際は時間差を設けて密集密接がないよう工夫しています。消毒作業や換気も時間を決めて行なっています。

②これからの課題と対応策について

(1) 今後、懸念される課題は

ママ友達との会話の中で子どもが体調が悪くなったときの看病の仕方に不安を感じてしまうという意見が多くありました。実際、子どもが発熱した際、不安になってしまいどのように対処すれば良いか分からなくなってパニックになりそうになったという話も聞いています。また、もし両親ともに体調が悪くなった場合子ども達をどこへ預ければ良いか不安になるとの声もありました。祖父母も年齢を重ねているため、もしコロナウイルス感染の疑いがあれば祖父母宅には預けることが出来なくなるのでどこに相談すれば良いかなど不安に感じている方が多いと感じています。

(2) 今後、必要とされる対策は

子ども達の体調不良のときの看病の仕方や受診のタイミングなどの指導が必要だと思います。小児科に殺到してそこでクラスターが発生してしまったり、また受診のタイミングが分からず重症化してしまうのが不安になるため親もしっかり学ぶことが大切だと思います。また両親が体調不良になった場合、どこに相談してどこに預けられるのかより多くの方に情報を届けていただきたいです。

(3) 行政に対する質問・意見・要望等は

コロナウイルスは子ども達の精神面にも影響を与えています。体調が悪くなると自分はコロナにかかっているのではないか、また学校などで体調不良の生徒がいるとコロナなのではないかと疑心暗鬼になっています。正確な情報や対処の仕方を家族単位で理解して行動が出来るよう導いていただきたいと思います。

岡田 正彦（大分大学 高等教育開発センター 教授）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

感染予防策として、大分大学の授業は前期の授業が基本的にオンライン授業となり、これから県内に限って実習実験が認められることになったばかりである。担当のボランティア実習を伴う授業については、受け入れ先(放課後児童クラブ、幼稚園、福祉施設など)の意向確認ができておらず、これから取り組みを行う必要がある。また課外活動の禁止など学生の活動や交流も停滞を余儀なくされ、ストレスがたまっている。

(2)現在のサービス提供状況は

9月まで授業はオンラインで行うこととなっており、県内での実習実験のみ認められ今後実施していくことになる。大分市社会福祉協議会などのボランティア活動のコーディネートが今年度は中止となっており、厳しい状況である。

(3)どのような工夫をしているか

オンライン授業ではグループに分かれての協議や交流を積極的に取り入れている。県内の子育て現場でのボランティア実習については今後交渉を進め実現させたい。

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

大分県内における感染拡大は最低限に押さえ込まれたが、今後コロナウィルスと共存する社会生活のあり方を作っていく上で、万一の感染を防止するための規制や自主規制が角にならないよう気をつける必要があると感じる。

(2)今後、必要とされる対策は

ワクチンの開発など社会全体での体制の整備が前提となるが、感染の拡大を防ぎつつ社会生活を維持する取り組みが必要である。休校時の放課後児童クラブと学校の柔軟な連携など今後非常時に有効な連携協力ができるよう協定やマニュアルの整備などを行っていく必要がある。

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

今回、大分県はじめ行政では一生懸命対応していただいたと感じているが、今後も感染症や災害などこれまで十分想定していない事態が生じることが懸念されるため、様々なケースを想定して対応や連携を図る計画を作成する必要があると考える。

小野 貴美子（一般社団法人大分県公認心理師協会 会長）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

対面による面接ができなくなった。会員の各職場での業務量が増加した。

(2)現在のサービス提供状況は

大分県公認心理師協会は職能集団であるため、直接的サービスは行っていないが、協会一般向けホームページに幅広い年齢層に対応したコロナ対応情報を逐次掲載していった。

(3)どのような工夫をしているか

会員の職場に依るが、感染予防対策を講じている。例えば、手指の消毒、マスク着用、パーティションの使用など。会員へのサポートとして、セルフチェックをすすめている。

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

心理的サポートを必要とする人が増えると思われる。

(2)今後、必要とされる対策は

ウイルス感染への正しい知識の情報提供、心理的サポートできる場の提供

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

大分県公認心理師協会にご依頼があれば、コロナ感染の心のケアに関する研修講師や相談員の提供を行いますので、ご活用ください。

川野 みどり (大分県商工会議所連合会 大分商工会議所副会頭)

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

0歳の子どもの育休中に、保育園自粛で3才児が登園できなくなったが、親にも頼れず母親の負担が大きくなり、ノイローゼ気味になってしまった。

(2)現在のサービス提供状況は

保育園は再開しました。

(3)どのような工夫をしているか

生活のリズムを取り戻すのに苦戦中です。

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

コロナウイルスの第2波、3波が来た時子どもの預け先の確保

(2)今後、必要とされる対策は

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

保育園や児童育成クラブの充実をお願いします。

神田 寿恵 (大分県保育連合会 社会福祉法人熊崎福祉会 すみれこども園 園長)

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

園内に感染が発生しないように保護者の方、部外者の入室を禁止したり、こまめな検温、消毒等を通常以上に行った。またマスクを使用した保育も大変で心身ともにとても限界を感じている。

(2)現在のサービス提供状況は

現在も同じような感染予防をする中、自粛頂いていたご家庭の子どもも登園してきて、新型コロナウイルス発生以前の人数で保育をしている。

(3)どのような工夫をしているか

- ・ 検温は直接皮膚に触れず短時間でできる体温計の使用。手洗い時、職員が必ずチェックをし消毒を行う
- ・ ご家族の健康状態をしらせてもらう
- ・ 空気清浄機の使用
- ・ こまめな換気
- ・ 職員の健康管理(看護師による)
- ・ 37.5℃以上の園児、咳が出る園児(喘息等季節性の咳以外)は休んでもらう。
- ・ 新型コロナウイルスの状況提供

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

- ・ 常時保育者のマスクの使用で言葉を取得する子ども達の言葉の発達が心配である。
- ・ また、同様に保育者の表情が分かり辛く、園児の情緒的発達が心配である。(特に支援が必要な園児)
- ・ 重労働の保育者の熱中症
- ・ 各種研修参加(研修のありかた)

(2)今後、必要とされる対策は

- ・ 熱中症予防
- ・ 園児の心のケア
- ・ 家庭でのDV、虐待

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

- ・ 夏場のプール遊びはどうしたら良いか
- ・ マスクの使用、外せるようになるのか

酒井 美恵（大分県小学校長会 大分市立丹生小学校 校長）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

刻々と状況が変化する中で、教育活動の見通しが立てられなかった。
教育課題の再編を何度も行った。

(2)現在のサービス提供状況は

児童育成クラブが休業中に子育て支援をしてくだり大変たすかった。

(3)どのような工夫をしているか

授業時数確保のために、教育課程の改善を行っている。

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

学校で集団感染リスクを0にすることはできない。
子ども達の学力保証と心のケア・人権教育

(2)今後、必要とされる対策は

感染症予防の正しい知識・技能の習得と実践力の育成。
状況に応じた柔軟なカリキュラムマネジメント

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

児童生徒の学びの保証をするための第二次補正予算による支援を大変ありがたく
思っている。早期の実現を願っている。

塩月 裕市（日本労働組合総連合会大分県連合会 副事務局長）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

長期の休みによる運動不足がストレスの蓄積や学習の遅れにつながるのではないかと心配があったが外出もできないのでできる範囲で運動するしかなかった。

(2)現在のサービス提供状況は

(3)どのような工夫をしているか

消毒液を家庭のあらゆる所に配置することと携帯した。

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

第2波、第3波に備えた学習のあり方(オンライン、そのための環境整備)

(2)今後、必要とされる対策は

ワクチンの早期開発

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

篠原 丈司 (社会保険労務士 篠原事務所)

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

子供の生活リズムを作ることに苦労した。

(2)現在のサービス提供状況は

(3)どのような工夫をしているか

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

(2)今後、必要とされる対策は

オンライン学習の充実が必要だと感じる。様々な状況で学校に来られない児童も授業を受けることができる環境の整備につながる。

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

土谷 修（おおいたホームスタート推進連絡会議 会長）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

コロナ対策に伴う活動の中止・延期の決定等の判断
市からの支援センター閉所通達による職員の処遇と勤務体制

(2)現在のサービス提供状況は

ほぼ元に戻りつつあるが、依然コロナ対策を継続しつつ行っている。

(3)どのような工夫をしているか

密にならないよう分散して活動
マスク、手洗い、消毒の徹底

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

コロナ終息がいつになるのか先行きがわからない中、行事をどこまで(規模)行えばよいか。

(2)今後、必要とされる対策は

早急なワクチンの開発と普及
十分な国や県の補助

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

土居 孝信 (大分県私立幼稚園連合会 会長 学校法人明佳学園 理事長)

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

感染者情報の共有について(県保健所・市担当課)ができておらず、関係者であるかの判断に困った。

(2)現在のサービス提供状況は

感染予防エチケット、3密対策、幼児の集団として可能な事を導入管理している。

(3)どのような工夫をしているか

教育課程等計画の見直し
熱中症対策と感染予防の対応と幼児に必要な活動をどのようにして実施するかを工夫している。

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

子どもの家族や関係者との感染関係を適確に把握したい。

(2)今後、必要とされる対策は

同上、感染拡大を阻止し、感染者を保護したい。

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

大分県内の乳幼児に関わる施設が全施設「自粛」対応ができた事は、他県の臨時休校と対比して、現場の協力が認められるものだと思う。

富高 国子 (放課後児童クラブ ファミリー・サポート・センターつるおか子どもの家 代表)

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

児童クラブの現場は、狭い場所での活動となるため、子どもたちに距離をとらせることがとても難しかった。また、消毒薬、マスク、手袋等の衛生用品が当初手に入りにくかった。

(2)現在のサービス提供状況は

現場は、変わらず「密」の状態です。さまざまな工夫をしながら、これまで通りの人数の子どもたちの受け入れを行っています。

(3)どのような工夫をしているか

「密」にならないよう、テーピングで立ち位置をきめる、外遊びを多くして室内を広くする。遊び方を制限しなければならないこともありました。

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

- ・マスクの使用について 暑い時期にこのままの使用でよいのか。
- ・消毒作業で職員の仕事時間が増えていることについて

(2)今後、必要とされる対策は

部屋の狭さの解消のため、学校との連携でこれからも体育館や図書室、グラウンド、児童クラブが使えるようになるといいなと思います。

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

児童クラブの1人あたり1.65㎡という基準の見直しをぜひすすめてほしいです！

中垣 円花 (大分大学 福祉健康科学部 学生)

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

・収入の減少による、学費・教材費・生活費の工面。(個人としての苦労)
・自粛期間での、経済的不安と育児・家事へのストレス。
(3歳児の子どもがいらっしゃる、ある保護者の方に、上記のようなご苦労があったと伺いました。)

(2)現在のサービス提供状況は

・「学びの継続」のための学生支援緊急給付金を申請しています。
・仕事と子どもの保育園が再開になり、育児へのストレスが軽減されたとのこと
です。

(3)どのような工夫をしているか

節約や、給付金に関する情報の収集を心がけています。

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

新型コロナウイルスの第二波によって再び自粛期間が設けられた場合、児童虐待等の問題発生を予防するために、どのようにして保護者の抱える悩みや家事や育児に関するストレス解消の支援を行うか、子どもたちの安心と安全を守るかが課題であると考えます。

(2)今後、必要とされる対策は

SNSへの投稿や広告等によって、いつでも子育てほっとライン等の相談窓口の存在と電話番号を広めることだと思います。

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

姫野 美和子（大分県民生委員児童委員協議会 主任児童委員）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

子育て支援として行っている子育てサロンが開催できず、対応に苦慮している。

(2)現在のサービス提供状況は

近隣住民、学校等からの情報で、電話での相談や訪問等を行ったり、他の機関につないだりしている。

(3)どのような工夫をしているか

家庭で子育てをしている親子と顔を合わせられないが、電話やお便り等を通してつながる工夫をしている。

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

先が見えない状況下での子育て支援をどうしていくか。

(2)今後、必要とされる対策は

今までと同じやり方ではできない。つながっていける子育て支援の方法を具体的に、できるだけ早く考える。

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

平井 貴美子（公募委員 チャイルドラインおおいた 代表）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

相談員の安心・安全(3蜜を避ける、感染リスク防止)を考え、公共交通機関利用者や、休校中の子ども、高齢者との同居、又は関係業務に携わる方に活動参加を休止してもらった為少ない人数で対応した。

(2)現在のサービス提供状況は

6月より3蜜をさけて通常シフト体制に戻った

(3)どのような工夫をしているか

- ・担当日の人数を最小限にし、机、イスの配置を変え、密接を避けている。
- ・消毒液の常設、マスク着用、手作りフェイスシールドなどで工夫している。

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

- ・安心して参加できる活動場所としての整備
- ・リモートワークの環境整備(オンライン研修の体制作り等)

(2)今後、必要とされる対策は

活動内容上、部屋の開放は難しい為、空気清浄機やパーティション等の備品
相談員の自家用車での参加による経費負担等の対策を考える必要性

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

非常時における子どもたちの不安を受け止める体制の構築を最優先課題として頂きたい(教育・福祉などの部署枠を外し、民間の力も活用した子ども総合部局(仮)の必要性)

藤澤 彩花 (大分県立看護科学大学 大学院博士課程助産学コース 学生)

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

予定した実習が行えず行えたとしても物品が少ないものもあり大変だった。

(2)現在のサービス提供状況は

(3)どのような工夫をしているか

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

実習が必要な職種(医療職、保育士など)も実習を計画通り行うことができず来年度の人材確保や就職活動が難しい。

(2)今後、必要とされる対策は

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

藤田 亘宏 (大分県社会福祉協議会 地域福祉部長)

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

子ども食堂の開催場所が公民館など公共の場を利用している場合、会場使用ができず、やむなく開催を諦めた食堂があった。学校に言われて休止した食堂もあり。

(2)現在のサービス提供状況は

運営者どうして話し合いを重ね、学校が再開した6月以降、順次様子を見ながら再開している

(3)どのような工夫をしているか

3蜜を避けるため、窓開放や換気、向かい合わないで食べる、弁当にして持ち帰る、レクリエーションなどはまだ行わないなど

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

- ・食堂の(本格的な)再開のタイミング。
- ・長期の休止を余儀なくされた運営者やボランティアの方々のモチベーションの低下。
- ・「食堂が休止していても何も困らなかった」と言われるのではないか、という不安。

(2)今後、必要とされる対策は

自治体、地域団体の理解(スムーズに復帰するために周囲の理解を)、マスクや消毒液、体温計などの支援、気持ちの応援(やっぱりやらなきゃという気持ちを支える)、食材や資金提供

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

マスクや消毒液などの支援や住民への広報(周知の協力) 安全、安心、多世代交流

正本 秀崇（大分県認定こども園連合会 会長 むさしこども園 園長）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

- ・子ども、保護者、職員へのコロナ不安に対応すること。
- ・新型コロナウイルス感染症の正しい情報収集と保護者への発信。
- ・保護者が、家で子どもを見ることへの対応。子育て支援の重要性が見えてきた。
(感染拡大防止の為に、家にいることが大切だったが、子どもの発達は保たれたか?)
- ・認定こども園は、子どもを安全に預かることだけではなく、1年を通した子どもの育ちを促し、その発達過程を保護者と共有するなどし、就労支援と共に子育て支援をしています。その年の年度末(3月)・1年のまとめの時期と、今年度初め(4月)に、園の利用を自粛するように呼び掛けなければならなかったことは、園としては断腸の思いだった。

(2)現在のサービス提供状況は

6月よりどの施設も通常通りです。

(3)どのような工夫をしているか

- ・うがい、手洗いの励行
- ・園内の消毒、室内換気
(様々な情報の中、良いであろう機材を購入した園もある)

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

- ・子どもの経験体験が縮小、削減される
- ・感染が確認された場合の園の対応(市町村、保護者、子ども、職員への対応)
- ・保育現場は、感染拡大しやすい環境であるが、3密を避けて保育はしにくい。
- ・未就学の子どもたちに対して、3密をさけて、どう保育を行うのか?できるのか?

(2)今後、必要とされる対策は

感染拡大防止の取組みをする、コロナ時代の保育を考えなければいけないが、新しい生活様式という、大人のルールに当てはめるのではなく、子どもの発達を踏まえた取組みを考えたい。

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

室 チエミ(一般社団法人大分県助産師会 財務理事)

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

消毒液やマスク等感染防止対策備品の入手が困難。費用も高い。
自分が感染しない、感染させないという意識を周知・徹底してもらうこと。

(2)現在のサービス提供状況は

「妊娠の悩み相談」「赤ちゃんとおっぱい電話相談」等、相談窓口を作っており、日々対応している。不安や悩みを引き出す声かけに努めている。
集団指導は6月末から再開予定。個別の事業は感染防止に努め再開している。

(3)どのような工夫をしているか

感染防止対策はもちろんのこと、集団指導は人数を制限し、3密を防ぐようにしている。
正しい情報を皆に伝える。会議はZOOMを使用したり、それぞれのスタッフができることをできる時にするよう努めている。

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

一番は第2波といわれる感染拡大の懸念。
自粛による経済活動の減少、停止

(2)今後、必要とされる対策は

自粛等により性に関する相談、中絶、妊娠や虐待が増えると言われていること→
相談窓口をわかりやすく示す。相談方法をかんたんにする。
収入源による経済的困窮者への支援

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

感染防止における備品、特にディスプレイのガウン等、提供していただけるとありがたい。今後感染が拡大した場合、妊産婦さんへの対応、身心のケア等しっかり対策してほしい。

幸野 晋也（おおいたパパくらぶ 共同代表）

①これまでの対応状況等について

(1)どのような苦労があったか

(2)現在のサービス提供状況は

(3)どのような工夫をしているか

②これからの課題と対応策について

(1)今後、懸念される課題は

小学校4年生と中学校1年生の娘がいます。休校中の勉強はプリントで宿題が出されました。
ほとんどの親御さんはお子さんの一日の学習の管理、丸つけに追われる毎日だったと思います。また、教科書の内容に沿って出された宿題については、親が教科書を読んで理解したうえで子どもに教えなければならなかったため、すごく大変でした。
親が勉強を教えるには限界がありますし、個々の子どもたちの勉強の遅れも心配されるため、再度休校となった際の学習対応が懸念されます。

(2)今後、必要とされる対策は

休校中の学習方法として、オンライン授業はひとつの選択肢です。
コロナ感染が拡大する以前から問題に挙がっていましたが、日本は他の先進国と比較して学校のオンライン化が遅れています。
オンライン授業が可能になる法整備、設備投資が必要です。
また、地震などの災害時に地域によっては学校に通えない子どもたちも出て来る可能性もあります。
災害時の緊急対策としても、授業をオンライン化することは有効ではないでしょうか。
子どもたちに学習の遅れが出ないように、また、子どもたちが平等に学習できるような対策を進めて頂きたい。

(3)行政に対する質問・意見・要望等は

オンラインに移行するための課題や、大分県としての取組みをお聞きしたいです。